

2014

Vol. 21

+

JAPANESE RED CROSS
SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER
THE SPECIAL NURSING HOME
HOJUYUEN

FRUIT FULL TREE





厨房
笑顔になれる美
味しい食事を作
ります

ヘルパー
ケアプラン
笑顔と笑顔
笑顔でつながります

laundrying

kitchen



Careplan
helper

Life
consultation

Office
consultation

Day
service

笑顔 来 福



事務

園長



デイサービス
いつもあなたの側に
笑顔のパートナー



生活相談
ご利用者さんご
家族の笑顔は私た
ちの宝物です



2階介護
 利用者様とともに
笑顔で元気に過
 します！



1階介護

あたたかい声と手と
笑顔で心に響く介護
 を。
 宜しくおねがいます。



医務

いつも病気の報告のお電話
 でご心配をお掛けしてすみ
 ません。
笑顔で健康に過ごせますよ
 うに心から祈っています。

あなたと向き合った日々

HOUJUN × Family

ご家族様の介護に取り組んだ経験をお話いただくこのコーナー。
今回、磯崎主任のインタビューに応じてくださったのは、松本花子様のご長女（相見恵美子様）夫婦です。

インタビューに答えていただいた、松本花子様のご長女：相見恵美子様（写真右）とご主人様

「元気な頃は花が好きで、いろいろな樹木や草花を植えては近所の方にさし上げるなど、とても人に優しく面倒見のよい母でした。そう語るのには豊寿園のショートステイに1ヶ月のうち10日、15日ご利用している松本花子様の娘さん、相見恵美子さん。ことある毎に無水鍋で大きなカステラを焼いてくれたり、子供に洋服を縫ってくれたりしました。昔から怒られた記憶がありません。今でも近所の方から「夫婦仲も良く、喧嘩をしているところもみたことがない」という評判を聞きます。

—お母様の変化に気が付かれたのは—

夫の仕事の関係で広島に私たちが夫婦は住んでいたのですが、平成8年頃（母82歳）実家に帰った時に洗濯機に洗濯物を入れたままの状態です翌日もまた同じ物を洗濯していたことや、物忘れが多くなり、おかしいなど感じました。

—在宅介護の始まり—
物忘れが始まってからも父と母は2人で北九州で暮らしていた為、ご飯を作れなくなった母に代わって、毎週末にクール宅急便でおかずをたくさん作って送っていました。金曜日の夜に宅急便を送れば、土曜日の朝には届くんですよ。平成10年に父が逝去したことをきっかけに広島に連れて帰りまして。当時まだ介護保険が始まっておらず、介護サービスなどあまりなかった為、近くの市民センターのサービステイに通いながら介護を始めました。家にじっといても何もすることがなければ刺激がないですよ。最初は「あんな老人はぶかりのところ行きたくない。」と言っていました。平成10年12月に元の母の家にみん

なで戻りました。近所の方には認知症ということも隠さず、全て話をしていました。これまで母が近所の方とよく関わっていたおかげで、母が一人で散歩に出かけた時には「お母さん向こうの方には歩いて行ってたよ。」等教えてくださっていました。

一度いつも通っている道から外れ、少し遠くまで行っていた為、警察の方に保護されたことはありましたが、それ以外はみなさんの協力のおかげで住み慣れた地域で安心して暮らしていくことができています。

—ショートステイを始めたきっかけは—
ショートステイを始めたのは姪の結婚式へ出席する為です。母を一人にする訳にはいかず、利用しました。豊寿園には年長者研修大学校周望学舎の研修カリキュラムで、見学に行つたことがあり、対応も良く、安心して利用できると感じていました。その後何か用事で家を空けないといけない時は利用するようにになりました。周りの方や担当のケアマネジャーさんから「少し休むことも必要ですよ」と言われ定期的に利用するようになりました。現在に至ります。

—在宅介護を続けていくなかで感じたこと—

平成22年、23年と転倒・骨折をし、医者からは寝たきりになりますと言われましたが、何とか歩いてほしいと思いい介護を続けた結果、まだ何とか歩くことができています。やはり介助する際に気をつけていることは「転倒」ですね。身体的に疲れることはありますが、介護中に母が「ありがとう」と言うことができます。喜びもひとしおです。

—今後の在宅介護について—

私もこの歳になり、母と暮らしていることは幸せです。周囲からは「頑張っているね」と言われますが、周りが思っている程頑張つてはいません。デイサービスやショートステイを利用しながら自分の趣味の時間もたくさんあります。私は楽観的な性格の為か、前向きだとよく言われますが、老いていく母をみて「もできないなくなつた」と考えるのではなく「まだこれができる」と考えていくことも長く介護を続けていく為には必要なものかもしれません。今、一番頑張っているのは母です。百歳を目前にしてまだまだハビリにも頑張つて通つてくれていま



元気な頃の松本花子様とご家族

す。母がいるだけで家族みんなが笑顔になることも増えました。私をこんなにも丈夫な体に産んでくれた母なので、私の体が元気なうちには在宅介護を続けていき、母に幸せな人生を送らせてあげたいです。

もし私に何かあった時は、もちろん豊寿園さんにお世話になろうと思っています。

認知症が発症し18年。現在、相見様ご夫婦と、松本花子様の息子さんと3人で在宅介護をされています。長く介護を続けていく秘訣は「頑張らないこと」。その為にもデイサービスやショートステイ、デイケアなどいろいろな在宅サービスを上手に利用していくことも一つの手段のだと教えていただきました。今回は貴重なお話をしてくださりありがとうございます。

福祉一〇メモ

<成年後見制度をご存知ですか？>

成年後見制度とはどのような制度？

精神上の障害(知的障害、精神障害、認知症)などの理由で判断能力の不十分な方々は、預貯金などの財産を管理したり、身の回りの世話の為に介護サービスに関する契約を結んだり、遺産分割の協議をしたりする必要があっても、自らこれらを行うことが難しい事があります。このような判断能力の不十分な方々を保護し、支援するのが成年後見制度です。

成年後見制度にはどのようなものがあるの？

大きく分けて法定後見制度と任意後見制度の二つがあります。

法定後見制度→後見、補佐、補助の三つにわかれており、判断能力の程度等本人の事情に応じて制度を選べる様になっています。

家庭裁判所によって選ばれた成年後見人等が本人の利益を考えながら本人を代理して契約などの法律行為をしたり、本人が自ら法律行為をするときに同意を与えたりと本人を保護・支援します。

任意後見制度→本人に十分な判断能力があるうちに将来、判断能力が不十分な状態になった場合に備えて、あらかじめ自ら選んだ任意後見人に自分の生活、療養看護、財産管理に関する事務について代理権を与える契約を公証人の作成する公正証書で結んでおくというものです。そうすることで本人の判断能力が低下した後本人の意思に従った適切な保護、支援をすることが可能になります。

平成25年5月より選挙権の制限がなくなりました！

これまで成年後見制度のうち「後見」が開始された本人については、公職選挙の規定により選挙権が制限されていましたが平成25年5月27日「成年被後見人の選挙権の制限が回復等のための公職選挙法の一部を改正する法律」が成立し「後見」が開始された本人の選挙権のなくなりました。なお補佐や補助が開始された本人については、元々選挙権は制限されていませんでしたので、これまでどおり選挙で投票することができます。

介護一〇メモ

高齢者の骨折

『あなたと向き合った日々』に出てきました骨折。高齢者が寝たきりになる原因の2位は「転倒・骨折」といわれています。高齢者は若い人に比べ骨折しやすく回復が遅いのが特徴です。しかし正しい診断と治療(手術、リハビリテーション)を行えば治すことができます。特にリハビリは早期から積極的にはじめると同時に離床を勧めることが大事です。

高齢者の骨折の特徴

若い人が骨折する時は、強い外力を受けて周りの筋肉が傷ついたり、折れた骨が大きくずれたりする結果、局所の強い痛みや腫れにより骨折部位がはっきりわかるような症状がでます。しかし、高齢者の場合わずかな外力で骨折を生じる為、骨折部の「ずれ」が少ないことも多く、骨折部の症状が軽いため、はじめは強い痛みを感じないことも多いです。骨折したまま生活し「ずれ」が大きくなってから病院にかかることもあり、診断、治療が遅れることもあります。

転倒・骨折は予防が大事

高齢者の場合は何よりもまず骨折を防ぐことが重要です。「歩く、またぐ、昇って降りる」という、日常生活に必要な動作の能力を維持・向上させることが転倒予防につながります。年齢を重ねてもトレーニングを行うことで筋力の維持だけでなく、増強も期待でき、転倒のリスクを少しでも改善できるよう心がけましょう。また、日頃の運動とともに家の中の段差や危険を感じる部分を把握し、改善できる部分は改善しておくことも重要です。転倒した経験のある方もない方も転びにくい身体と環境を作るよう心がけましょう。

足の付け根の骨折 主に横方向への転倒や尻もちをつくことによって受傷します。転倒した後に(大腿骨頸部股関節に痛みがあると、この骨折を疑います)

腰の骨折 主に尻もちをついたときに腰の骨が(腰椎圧迫骨折) 圧迫されて起こります。程度には差があり、ひどい場合は痛みのため身動きがとれないこともあります。中には痛みがそれほど強くない、本人は気づかずそのまま生活し、徐々に背骨が曲がって変形が進むこともあります。





こんな大きなお芋が採れたよ



ここにも ここにも お芋があるよ



沢山作るから、きれいに並べないよ



きれいにおもちが丸くなったかしら



ペッタンペッタン。もう一回



おいしいケーキができるよう、しっかり混ぜてね



一年健康で過ごして下さいね



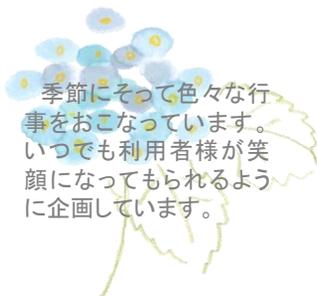
今年も健康で過ごせますように



無病息災を願います



獅子舞 めでたい、めでたい



季節にそって色々な行事をおこなっています。いつでも利用者様が笑顔になってもらえるように企画しています。



初詣、神様に新年のご挨拶

○編集後記(editorial note)

2014年午午が始まりました！！と思っていたら、早いもので、もう2月です。今年は月日が馬のように駆け去って行きそうです。色々馬にまつわることわざがありますが、「うまくいく」「幸運が駆け込んでくる」といったポジティブな考えで一年を過ごしたいと思います。

さて、平成25年度広報委員は6月より新メンバーに変わり前号より紹介をしています。今回は1階介護職員、看護師、デイサービス職員を紹介したいと思います。



西郡 真奈美

担当記事：We are volunteer
ボランティアの方々にとても感謝
しています。私も何か人の役に立
てる様励んでいきます。



倉田 沙耶香
担当記事：福祉一口メモ

寺岡 理恵
担当記事：We are
volunteer
福祉一口メモ



辻村 季沙
担当記事：豊寿園アルバム

前田 亜由美
担当記事：豊寿園アルバム



原田 ゆかり
担当記事：ホームページ
ブログ



松山 采華
担当記事：豊寿園アルバム
園内掲示

笑顔忘れず、一生懸命頑張ります！
よろしくお願いします！

地域ぶらり情報

豊寿園に勤務する職員がお勧めの地域情報を紹介するコーナーです。

今回ご紹介するのは、**FruitFactory Moon**
(フルーツファクトリー モーン) さんです。

国道3号線を門司駅から小倉方面へ向かっていくと右手に真っ白な外観のお店があります。雑貨屋さんかな？美容室かな？と思う様な店構えですが実はここは門司の方なら誰でも知っている中二十町にある果物屋「いかど」さんがプロデュースするカフェ。店内は白を基調とした明るい雰囲気、お店に入ると、すぐに可愛いカフェのユニフォームを着た店員さんが笑顔で出迎えてくれます。旬の果物を教えてくれたり、試食もいっぱい！そして何ととってもお値段が安い！店内は果物の販売コーナーとカフェコーナーに分かれており、カフェでは旬の果物を使ったパフェや、ランチメニューも充実しています。

このカフェを構想し始めたのは5年前。新しい果物屋のあり方を考えてきた「いかど」さんはこれまでもインターネットを使って果物の贈り物を頼むことができていたりしていました。さらに若い人達に美味しい果物を食べてほしいという目的で



なんと江川店長は東京の有名なフルーツパーラーで2年間修行してこのお店をオープンさせたそうです。平日は午前中から高齢者の方が来られたり、昼間は主婦の方が来られたり、休日は若い方や子供連れの方が来られたりと幅広い年齢層のお客さんでいつも



駐車場はいっぱいです。

「買う」「食べる」「贈る」ことができる果物屋さん。「果物のことならMoonに行ったらいいね」と言われるような存在になりたいと江川店長さんはおっしゃっていました。みなさん、近くを通られた際は是非のんびりとひと休みしてみたいはかがでしょうか。

・フルーツファクトリー Moon

北九州市門司区中町5-26
TEL 093-382-1003
営業時間 11:00~19:00
定休日：第2・4水曜日

トピックス T O P I X

1

この春に新たな企画が始動します！

H26年4月より地域交流事業の一環で「豊寿園子供ボランティア隊」という活動が始まります。これは、次世代の地域福祉を担っていくであろう小中学生が、その地域に住む元気な高齢者宅へ訪問し、普段一人ではできない事を子供達と一緒に楽しくお手伝いをさせていただくというものです。普段一人ではあまりできない事とは？例えば、窓ふき、古新聞の整理、電球の取替え、写真の整理等30分程度で終わる子供たちにできそうな事であれば、どんどん依頼に応じていきたいと思えます。まずは、豊寿園のお膝元であります松ヶ江北小学校の児童がボランティア隊に入隊してくれました。広報紙、ホームページ等で隊員の紹介や活動報告を行っていきますので楽しみにしてください。また、今後は活動範囲を広めていきたいと思えますので、活動していただける小中学校がありましたらご協力をお願い致します



2

豊寿園広報紙「豊かな樹」韓国版発行！

豊寿園では、「世界とまっとうクロス」で記事を提供していただいています「韓国・ソウル市、ピョルドン区立中区老人療養センター」に、同じ介護福祉施設として介護について情報を共有ができるように、豊寿園広報紙「豊かな樹」韓国版を発行しお送りしています。今後お互いに情報の交換や共有しながら、より深い交流が図れるようにしていきたいと思っています。

あけましておめでとうございます。韓国では今年は青馬の年と言います。力強く走る馬のようにこれからも豊で元気あふれる一年になることをお祈り申し上げます。昨年、韓国版広報誌を受け取りました。園長はもちろんのこと、原稿を書いたソンスンヒ栄養士をはじめ職員全員が豊寿園の広報誌をありがたく思っております。施設の便りと合わせて掲載した写真が私たちの施設を知ってもらえる助けになることを願っています。今年には貴社(豊寿園)を訪問する計画があります。嬉しい再会ができるといいですね。特に寒い冬の気候が続いております。健康に気をつけてください。青馬の新年 新しい気で飛躍する一年になることを願っております。

事務長よりお手紙頂きました

事務長 ファンジョンヒより



3 救急法の講習会をおこないました！

11月11日「介護の日」に合わせ、赤十字救急法の講習会を行いました。豊寿園では、赤十字救急法指導員が4名在籍していることから、毎年2回は基本を忘れないように練習を重ねています。毎年繰り返し行うことで、利用者様の急変時にもすばやく対応できるようにしています。

豊寿園の赤十字救急法指導員が救急法の出張講習に伺います。ぜひお声を！！



勤務年数が長い職員は、指導員から指導されることも少なく、行えています。ベテランらしさが現われていました。



新人職員は手順や操作方法を覚えるまで繰り返し練習を行っていました。

写真上

ひとりひとりに手の置き方や使い方などから細かく指導を受けていました。



日本赤十字社

We are volunteer

赤十字活動を支えるボランティアさんを紹介するコーナーです。

私が豊寿園のお手伝いをする様になったのは、姉が認知症で、豊寿園に入所して以来ですから、約四年ほどになります。最初の頃は、運針の上手な姉と仲良しの方と私の三人で雑巾を縫ったりしていましたが、その内、姉は自分が何をしているか解らなくなり、洗濯室にミシンがあるとのことで入所者の衣類の繕いをするようになりました。

特にスポンの修理が多くて、ゴムの入れ替えが時間がかかり非常に大変ですが、毎回十枚を目標にしていますが、その他雑巾や、ベッド、車椅子のカバー等を作る時もあります。それと気が付いたのですが、入所者の方の名前の判らない衣類が多くて、仕事場の人はとても大変なようです。また、靴下はまる



大久保 孝子さん

四年前から毎週木曜日、入所者様の衣類の繕いなど裁縫のお手伝いをいただいています。お客様でいつも入所様が綺麗な洋服を着て過ごされています。職員も大変助かっており、心から感謝申し上げます。



でトランプの神経衰弱をするみたいです。目立たない仕事ですが、今後もできる限り御役に立てる様に頑張るつもりです。

Question4: 将来のキャリアアップ像はありますか？

松山: 先輩職員のように、利用者のことをよく知っていて、その方に合った介護ができ、緊急時の対応やキビキビと働いているところに憧れます。まだ歳は若いですが、先輩職員のような介護福祉士になりたいです。

原田: 将来は現場で得た知識や経験を生かし、相談員もしてみたいです。ご利用さんやご家族の方々はもちろん、介護現場で働く職員のことでも理解できるような視野の広い人間になりたいです。

岡崎: 現場の経験を積んだら、ケアマネジャーの資格にも挑戦していきたいですね。自分の知識も増えるし、頑張りたいです。



Question5: 養成校で学んでおきたかったことは何ですか？

田中: もっと実習をしたかったですね。授業だけだと実際とギャップがあることが多くて、少しでも実習で良いことも厳しいことも経験しておきたかったなと思います。

初瀬: 介護技術などは学べたと思いますが、緊急時の対応や医療面をもう少し勉強できれば働き出した時に助かったなと思います。今は現場で学びながら働くことができていますけどね。

原田: 私は学生時代、「福祉」という大きな分野で勉強をしていました。その為高齢者の方と触れ合い、理解し合えるような機会が数日間の実習だけでした。今振り返ってみると高齢者の方、特に認知症の方の行動や心理面について、もっと学んでおきたかったです。現在は常に利用者の方と関わることができて毎日が勉強です。

山中: 介護の知識面については十分学べたと思いますが、それと比較して技術面が伴ってないと感じることがありますね。



Question6: 豊寿園で働いていて赤十字を意識することはありますか？

田中: 豊寿園で献血があるのを見ると赤十字の施設だと感じますね。また、災害が起こった時、テレビで日本赤十字社のマークを見ると、同じ仲間が頑張っているんだなと、私も気が引き締まります。

初瀬: 昨年の5月に門司みなと祭りで救護服を着て参加しましたが、「私も日赤の職員なんだ」と自覚することができました。

松山: 豊寿園は多くの研修や出張があり、いろいろなことを吸収することができます。赤十字の施設なので充実しているのかなと思っています。



新任職員 × HOJJYUEN

入職して早9ヶ月。随分業務にも慣れ、笑顔も増えてきた平成25年度新任介護職員にインタビューしました。まだまだ戸惑いもある中、赤十字の職員として自覚を持ち、日々頑張っています。

座談会に参加した職員紹介



Question1: 入職前の豊寿園のイメージは？

松山: 私は高校生の時に、豊寿園に実習に来ていて、その時に職員の皆さんが笑顔でキビキビと働いているのを見て、利用者さんのことをきちんと考えて動いている姿がすごいと思っていました。

山中: 赤十字の精神で様々な専門職が連携して特養、通所介護、訪問介護等の事業を営んでいて、施設の規模も大きく、認知症の高齢者にとって安心できる施設だと感じていました。

岡崎: 赤十字の施設で、認知症の方を専門に支援していると知り、実習に行った施設とは違い個別にケアしているのだと思いました。実際も個別ケアを行っていますが、本当に難しいですね。



Question2: 入職後戸惑ったことはありますか？

山中: 「利用者の方が安心して安全にその人らしく生活できるように支援しなければいけない」という責任の大きさを強く感じますが、自分が理想とする介護を提供するにはまだ力不足だと実感し、どうしたらいいのか戸惑うことがあります。

初瀬: 認知症の利用者さんが多く、一人一人に合った対応ができない自分に戸惑いました。

原田: 業務のスピードの速さです。入職直後は自分が動くことができないにしても、先輩職員の動きだけでも追おうと必死でした。実際に動けるようになって、業務の一瞬一瞬に責任を持って働いています。スピードだけ早くても意味がないことも実感できました。

Question3: 今の自身の課題は何かありますか？

田中: 利用者の方の理解と介護技術の向上です。個人に合ったケアができる様になりたいです。

岡崎: まだ戸惑ったり自信のない業務があるので、スムーズにできるようになりたいです。特にケアプランはその方に必要な支援を言葉にしていかなければならないので、とても難しく感じます。



2014

Vol. 21

+

JAPANESE RED CROSS
SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER
THE SPECICAL NURSING HOME
HOJUYUEN

豊
か
な
樹

F R U I T F U L L T R E E



豊
寿
園